

## 会 議 録

□全部記録    ■要点記録

<b>1</b>	<b>会議名</b>	第4回姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会
<b>2</b>	<b>開催日時</b>	平成30年11月9日（金曜日） 14時00分～16時02分
<b>3</b>	<b>開催場所</b>	姫路市役所 10階 第2会議室
<b>4</b>	<b>出席者</b>	（出席者）姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会委員10名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、総務課長、学校指導課長、 教職員課職員
<b>5</b>	<b>傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、傍聴人13名
<b>6</b>	<b>次第</b>	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 (1) 地域とともにある学校について (2) 学級の規模について (3) 学校配置と通学距離・時間について 4 連絡事項 5 閉 会
<b>7</b>	<b>会議の要点内容</b>	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第4回姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会を開会する。</p> <p>8月末に、連合PTA協議会に対して審議の内容を説明し、意見交換を行った。また、広報ひめじ12月号で本審議会の記事を掲載する予定である。</p> <p>今後の流れとして、まず、これまでにいただいたご意見の中から問題提起をしていたいただいた案件や、更に議論を深めていただきたい案件などについて数回にわたってご意見を頂戴したいと考えている。その後、頂戴したご意見をとりまとめる作業を進め、委員からのご意見を踏まえて中間まとめを作成していきたいと考えている。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>(教育長挨拶)</p> <p>委員の皆様においては、御多用の中、第4回姫路市立小中学校適正規模・適正配置審議会に御出席いただき感謝する。</p> <p>本日は、これまでに問題提起をしていただくなどしたいくつかの案件のうち、「地域とともにある学校」、「学級の規模」、「学校配置と通学距離・時間」の3点について御審議いただきたいと考えている。</p> <p>まず、1点目「地域とともにある学校」について、教育委員会としては、これまでの審議会でも示したように、学校規模の適正化等については児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据えるべきであると考えている。その一方で、「地域とともにある学校」の観点などから、「地域活性の視点」を併せ持つ必要もあるのではないかと、この点について御意見をいただきたいと考えている。</p> <p>2点目の「学級の規模」については、新学習指導要領が求める教育活動などに鑑み、1学級に必要な児童生徒数はどれくらいかについて、御審議いただきたいと考えている。</p> <p>3点目に「学校配置と通学距離・時間」について、適正化に向けた具体的な取組に当たって、児童生徒への支援策が必要となる通学距離・時間の目安について、御審議いただきたいと考えている。</p> <p>委員の皆様においては、これら3つの議題について、引き続きそれぞれの立場から様々な御意見や御提案をいただき、活発な審議をお願いできればと考えている。よろしくようお願い申し上げます。</p>

事務局	会議成立報告
会長	(公開可否の決定) 本日の審議会は、異議がなければ公開とするがよいか。(異議なし) 異議なしと認めて公開とする。
会長	(第3回会議録の確認) 第3回審議会の会議録について修正等の意見はあるか。(意見なし)
会長	会議録として決定する。
会長	3 議事 (1) 地域とともにある学校 事務局からの説明を求める。
事務局	資料1「地域とともにある学校について」を用いて、「次世代の学校・地域」創生プラン、学校と地域の関わり、教育的な視点と地域活性の視点について説明
会長	御意見、御質問を伺いたい。
委員	議論に入る前に確認をしたい。審議は結論を出すものであり、協議というのは議論をして色々意見を述べるものであると思うが、今日からの議論は協議か、審議か。
事務局	協議をお願いしたい。
委員	次回や次々回に取り上げる議題が、ある程度見えていたら教えてほしい。
事務局	事務局としては、大規模校の適正化、小規模特認校制度、地域協議会を議題とすることを考えている。また、協議の中で新たな問題提起等があれば議題を追加したいと考えている。

委員	<p>教育委員会に確認したい。前回、今後の方針を決めていくために、まず、それぞれの学校が協議し、課題を発掘する場が必要だという意見があったが、教育委員会では、大規模校や小規模校の大まかな課題は把握されているのか。</p> <p>このような協議をする中で、各学校の課題を把握した上で、審議会をされていることと思う。どこまで把握されて、審議会を発足させたのか。</p>
事務局	<p>大規模校や小規模校の課題等については、第1回の資料5に示している。これは個別の学校の話ではなく、国の手引を参考にまとめている。</p>
委員	<p>これは一般的な話であろう。</p>
事務局	<p>前提として、将来必ず到来するであろう少子化に向けた学校の在り方について審議をお願いしているところである。個別具体的にどの学校にどのような課題が生じているといったところで審議をスタートしているものではないということをご理解いただければと思う。</p>
委員	<p>では、まだ白紙の段階ということになるだろう。</p>
会長	<p>このことについては、地域協議会の議題のところ、具体の部分をお話し合わなければならぬと思う。今日は、その前提となる部分の協議となっている。</p>
委員	<p>先日、ある地区の自治会長にお会いした。その地区の自治会長は、「教育委員会はなぜ地域への説明をしないのか。」と言われた。また、「教育委員会は、我々が味わった学校がなくなる時の苦しみを知らないだろう。当時、小中一貫教育の推進のため、二つの小学校のうち、片方がなくなった。どちらの学校に移るかといったときに、自分の校区の学校は狭かったのもう片方の大きい学校の方へ移らざるを得なかった。そして、自分の小学校を消さなければならなかった。苦労した。そのような話を、なぜ聞かないのか。」とも言われていた。私は、この審議会までに話を聞いた。さらにその地区の自治会長は「審議会をやっているなら、我々も協力する。自分たちの体験を全部説明する。」と言ってくれている。</p>

会長

地域の問題について、一つ具体的な事例からご指摘をいただいた。

委員

この議題では、学校を教育施設として学校だけで考えるのか、学校は地域の中の一つの機能であり、地域の他の機能と連携するものと捉えて学校を考えるのか、のどちらでいくのかということ協議しているということが良いのか。

会長

基本はそうである。

委員

そうであれば、私は、地域の中にある学校であるべきだと思う。さらに資料に書いているような、機能や役割だけでなく、ハード面である施設についても、例えば、教育施設と地域拠点施設や福祉、厚生施設などが複合化するのが良いと思う。一つに人口減少問題があるので、学校という器がそこまで担っていく、つまり、地域拠点になるべきだと思っている。そういう意味では、地域との関わりの中で適正規模や適正配置を考えていくべきだと思う。

会長

今の話は大切であると思う。今までは、子供たちの教育を行うのが学校であったが、これからは、地域に住んでいる者が学校を活用しながら色々な取組をすることで、それが地域のまとまり、地域の活性化につながっていくのかなと思った。

委員

事前に学校関係者に話を伺ってきた。どこでも同じような問題を抱えている。少子化、過疎化の両方の問題を抱えており、姫路だけの問題ではないと感じた。話を聞いたところ、やはり、コミュニティは、ずっと学校を中心にできている。本来はそれが一番ふさわしいし、我が国にとってはぴったりであり、私も賛成である。しかし、少子化の中で、それでは、立ち行かなくなっている。

では、どうやって学校と地域を考えていけば良いのか。子供も全国的に減ってきており、特に農村部などがその問題を抱えている。これからは、地域コミュニティを作る場所は学校だけだという考え方から、少し離して考えていかなければならないのかもしれない。先行事例で言えば、授業が終わった後に、地域が学校施設を使って色々な地域活動をやっているところもある。そうすることで、若い夫婦が入り、人口が増えるかもしれない。

全国的に人口が偏っているが、これは変な現象である。やはり、どこでも満遍なく

子供たちはいてほしいし、地域で育ってほしいと思う。

委員

現在も、学校教育において、色々な形で地域に協力していただいている。地域の意向を聞いた上で、これからの学校の在り方を考えていく機会にできればいいのではと思う。

ブラジルのサンパウロでは、保育所から大学までを一つの敷地の中で運営している。さらに、その中に地域も入り、地域の高齢者の方が体育館を借りて活動をしている。そのように、地域そのものを巻き込んだような考え方も含め、地域によって事情が色々違うと思うので、地域ごとに耳を傾けながら在り方を考えていくべきではないかと思う。

委員

大きなところでは異論はない。

地域と学校、両方とも考えながら、学校教育という意味合いと、ハード面、つまり施設としての位置付けは、内容によっては分けて考えながら、学校教育とは違う機能を果たす施設して考えるということも必要であると思う。

少子化が進むことが分かっている状況で、両方共を突き詰めるのは、実現が不可能であると思う。どの辺りを目標として基本方針で持っておいて、個別対応が必要な場合はどの辺りかというのは、少し踏み込んだ検討が出てきた上で、ラインを引いておかないといけない。

現状から変わってしまうというのは、自分も含めて抵抗のあることだと思うが、社会全体が変わっているので、いつまでも今までと同じように考えることはできないと思う。例えば、生徒が一人になっても、地域が望めば学校を維持するのかということについては、私は違うと思うので、もう少し、次の細かい話をして行く中でラインを引いていく必要があるのだろうと感じた。

委員

学校と地域は密接につながっている。学校は防災拠点にもなっており、地域で防災訓練を行うときには、学校も一緒に取り組んでいる。

このようなことから、学校教育のみを考えるのではなく、「地域とともに」という考え方は、とても大切なことであるし、今後重要になってくるので、そこは外せない。

ただし、それを全ての学校に、全部一気に当てはめるということは、本当に子供たちにとって良いのだろうか考えるので、そこは更に具体的に検討していく必要がある

ると思う。

委員

現段階では、最終的にどこを目標とするのかが見えにくい状況ではあるが、PTAから見ても、地域に支えられているという点については、私もそうだと思うので、そこは、やはり大切な部分だと思う。

地域だけの視点で良いとか、教育の視点だけで良いとか、線引きはできない。もちろん地域も大事であり、子供の教育も大事である。二つに分けるのではなく、うまく、地域と教育を考えることが必要だと思う。

委員

地域と学校は切っても切れない関係で、魅力ある学校をつくるということと、それによって魅力ある地域をつくるということは大事であると思う。

現在、人は都会に集中している。聞くところによると、東京では、10年くらい前は、50歳代の方は、そろそろ定年なのでふるさとに帰ろうと考えている人が多いそうであった。しかし最近では、30歳代の方が、子育てのことを見据えてふるさとに帰ろうと考えている人が増え、約45%いるそうだ。この要因として、ふるさとに愛着があるかどうか関わっているそうだ。ふるさとに愛着がなければ帰らない。魅力のないふるさとには帰らない。

私は、魅力あるふるさととは何だろうと考えたときに、ふるさとで学んだ小・中学校の時の教育というのが大事になってくると考える。

ふるさとに帰ることによって、次代を担う人材が増える。ふるさとで頑張っている人もいれば、一旦外に出たがカムバックしてふるさとで頑張る人もいるだろう。学校と地域が協力しながら魅力あるものを作っていかなければならないと感じている。

委員

在るべき姿を語れば良いということで、私は、理想的な学校の形を考えるとすれば、複合的な機能を果たす学校という姿を考えているが、それは法的に、あるいは、市の組織的に可能なのか。

会長

京都では、既に学校施設の複合化を実施している学校がある。

大阪では、私立の高校までの学校については、以前はだめであった。しかし、来年の春から可能となる予定である。

全国でも少しずつ増えてきており、私学は積極的に行おうとしている。この流れは

ある。

しかし、学校は子供がいるので、地域と一緒にやると言っても、おのずから何かしらの条件は付けなければならないだろうという議論は当然出てくるだろう。

事務局

学校施設を中心に複合化してはどうかという意見や、外国では同じ敷地の中で保育所から大学まで一つにしている所があるというご意見をいただいた。

現状、これまでの行政においては、それぞれのサービスごとに、例えば、福祉のサービス、地域コミュニティの支援、教育など、そういったサービスや分野ごとに施設を作って配置をしてきたというのが実際のところである。現在、学校施設ではないが、施設整備に当たっては、複合化というのが大きな流れの一つとして出てきている。ただし、学校を取り上げた時に、学校を拠点にして地域のサービスを全てその中に入れられるかという、これは、中長期的な理想的な形としては、お示しいただいたとおりであると思うが、現実的にすぐに対応するのは難しい面があると考えている。

委員

地域コミュニティの話が出たが、地域内では高齢化が進み、課題がたくさんある。例えば、要援護者の支援事業、高齢者の見守りなど。他にも、公民館活動の中で乳幼児の世話をボランティアにしてもらうこともある。そういうことも含めて、非常に幅広い支援を要求されるようになってきた。しかし、我々にできる範囲は限られている。その中で、地域住民の皆様にご協力いただきながら自治会が主体となって、前向きに取り組んでいる。

一方、学校は児童生徒数や学級数が減ってきている。これからの課題であるが、できれば、地域の活動をする時、空き教室を使えばもう少し地域コミュニティの活性化につながるのではないかと考えている。学校施設を地域が活用することによって、子供たちと地域の大人が接する機会が増えてくる。その辺も狙って、できるだけ、学校施設を活用する方向で検討していただきたい。

会長

ご意見を色々いただいた。これらを今後の議論等の基礎的な部分にしていただきたい。

### 3 議事

#### (2) 学校の規模について

会長	事務局からの説明を求める。
事務局	資料2「学校の規模について」を用いて、新学習指導要領が求める教育活動、学級編制基準、1学級に必要な児童生徒数について説明
会長	<p>今、説明していただいたように、学級規模については上限がある。また、下限については、複式学級の基準があるが、複式学級というのは異例の対応である。</p> <p>新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が言われており、先生と生徒が1対1で学ぶということより、子供同士がグループで学ぶ、あるいは、先生と子供たちが一緒にグループを作って活動するといったことを全国で進めようとしている。これは、子供たちに、新しい時代に即応した思考力を身に付けるためである。そのような流れの中、学級規模について、皆様から御意見、御質問を伺いたい。</p>
委員	先ほど会長から、複式学級は異例の対応であると言われた。以前の審議会で、複式学級の様子を拝見したが、複式学級はだめなのか。
会長	<p>だめではない。しかし、一人の先生が、こちらを向いて教え、また別の方向を向いて別のことを教えるというのは、あまり正常ではない。そういう意味で異例と言った。先生方も、やらざるを得ないから、苦労してやっている。</p> <p>昔の日本は、小学校は一クラス50～60人くらいいた。韓国や中国でも、少し前まで一クラス60人くらいいた。しかし、現在はクラスの人数を少なくしていく方向である。ただし、人件費については考えなければならない。無限にお金があるということではない。</p>
委員	<p>私は、下限の数を決めるのは大事だと思っている。そこに、地域が頑張るといふか、努力する当事者意識を高めるということもあると思っている。ただ、複式学級を認めるか認めないかで、下限の数が2倍くらい変わってくるので聞いてみた。</p> <p>原則は、複式学級は色々な面で負担が大きいので、できれば1学年1学級が望ましいと考えた方がいいということですね。</p>

会長

先生方は、教材研究などで苦勞しておられる。その中で、同じ時間に複数の学年に対して同時並行で授業をするというのは、普通はできないことである。

委員

今日、兵庫教育大学附属小学校で研究大会があり、参観した。子供たちは、ディスカッションの中で、お互いに色々な考えを伝えて進めていた。その時に、答えは同じであるが、そこに至るまでのプロセスが、グループによって違う。私が一番感心したのは、子供がすごく生き生きしていた。答えまでのプロセスを探すのが楽しいようであった。私が学生の時は、一方的に先生が知識中心に教えていた。

ソサエティ(Society)5.0 がこれから来ると言われているが、情報を使いこなせるような人を育てていかなければならない。答えを正しく出せばいいという時代はもう過ぎたと思う。答えに至るまでをどのように考えていったか、これが、新学習指導要領に示している、主体的・対話的で深い学びであろう。

また、これからの子供たちにとって大事なものは、コミュニケーション能力である。その能力は、様々な人たちがいる集団の中で切磋琢磨して育つものであろう。

さらに、ああだこうだと言いながら新しいものを作り上げていく力も付けなければいけない。次の社会に、向かっていける力を付けなければいけない。そのようなことが、新学習指導要領につながっている。この辺りのところを踏まえた上で、議論していきたいと思う。

委員

下限の議論は難しいと思う。確かに、グループがいくつもあって話し合うことは大事であるが、子供たちはSNSを持っているので、そのようなものを使ってできると思う。しかし、上限については、40人は無理である。例えば、中学校では、英語や数学でハーフサイズの授業を行うと、一クラス20人以下になる。そこでは、普段、教室で意見を言わない生徒が手を上げて発表するようになる。つまり、40人いれば、その中に埋もれて、一言も発しなくても1時間を過ごせることがある。それが、半分の人数になると、そうはいかなくなる。逆に、たくさんの人の前では言いにくい、これくらいなら言えるという生徒もいる。

全国学力・学習状況調査結果の上位県などでは、20人、25人程度の学級となっているようである。

多すぎるというのは問題である。最大でも30人、できれば20人が望ましいと考える。

会長

全国学力・学習状況調査には2種類の問題がある。教科書に書いていることを理解していれば解けるのがA問題。自分で考えて解かなければいけないのがB問題。このB問題が解けるようになるには、あまり大規模ではいけないと思う。秋田県や福井県は上位県である。

委員

私自身、複式学級を担任したことがあるが、先ほどの会長のご意見がよく分かった。当時、私が担任した学級は、1年生が1人で、隣接の2年生が0人だった。そうすると、先生と2人っきりの教室となってしまう。だから、近隣の小学校にバス等で行って、同じ学年の子供たちと交流させた。そうすると、子供たちは嬉しそうに喜んでいました。

小規模校も、人数が減って、そのような規模に行き着くまで対応しないのか、それとも、それまでに対応していくのか、それは大事なところだと思う。

また、違う年、5、6年生が各3人ずつ、合計6人の複式学級を担任した時も、私一人が後ろを向いたり前を向いたりして、二つの学年の授業をしなければならなかった。理科は、A案とB案の二つのカリキュラムを作って、授業を行った。しかし、3人での話し合いは難しかった。漢字や計算の力を徹底させるという意味では、少ない方が良いと思う。

現在、本校では、ペアトークに力を入れて取り組んでいる。ペアトークでは、12人でローテーションして活動した。

前任校は、1学年約20人の全校生約120人程度の規模であった。学年20人いると5グループ作ることができ、かつ、全体的な話し合いもできる。ある年、1年生が12人程度であった。休み時間、ドッジボールをしていても、そのくらいだと、なかなか盛り上がらない。そういう意味で、10人程度は少ないと思った。

ペアトークは、12人でもいけると思うが、資料にある、複式学級にならない人数として15人と示されているが、その辺りがいいのかなと思った。

委員

教育については、三つ子の魂百までという諺もある。小学校、中学校の教育は大切な時期であると思う。児童生徒数も大切であるが、子供たちがこれからの社会を乗り切っていくために、バックアップ体制を整え、支えることも必要だと感じた。行政、

地域、学校がトータルで取り組んでいく課題であると感じた。教育委員会だけが力を入れてもうまくいかない。地域が独断をすると、学校がうまくいかない。学校と地域と、子供たちが一体となって、大人への成長を支えるような格好で、この話をまとめていければいいのかなと思う。

委員

もし、4人のグループが一つしかできなかつたとすると、人間関係が完全にできあがってしまっており、その中で深い学びや対話はなかなか育っていかないと考えられる。そこで、グループを入れ替えることによって、色々意見を出し合えるような集団規模でなければならないと思う。

そう考えると、最低、この辺りの線かなと、私は教師をやっていると思う。20人でも良いが、少なくなった場合は、これくらいは欲しいという気持ちである。

委員

この辺りの線とは、何人くらいを指しているのか。

委員

16人程度である。4人のグループで四つということである。

会長

箕面市のある小学校では、ある時期、子供が10人未満であった。一つの難点は、人間関係が固定してしまう。仲良くなるのだけれども、言葉に出さなくても分かり合えてしまう。話し合いがなかなか成立しない。

委員

国や県の学級編制基準はどの程度の強制力があるのか。変更できるようなものなのか。

また、複式学級などの編制基準の人数が、この数に決まった背景が分かっているのであれば知りたい。

以前の議論で、少人数過ぎると社会性が育まれにくいという話が出ていた。事務局では、そのことについて調べていただいたが、明確に立証されたものはなかったと記憶している。法律等で定められている数値に何かヒントがあるかと思い質問する。

個人的な感覚としては、人と人が接触しながら意見交換できるような場の方が、子供たちの教育環境として良いと思っている。

事務局

学級を編制するに当たっては、国の法律や県の基準に従わなければならないというものである。これらを変更することは、市から国や県に働きかけなければならないが、現在も要望しているが、実際は難しいと考えている。

人数の根拠については、国や県からは特に示されていない。

会長

上限は、時代とともに下がってきている。下限については、複式学級の基準はあるが、解釈が分かれるところであるので、皆様に意見を伺っている。

委員

ある程度の児童生徒数がある中で、これくらいが大枠だと思う。

私の長男、次男とも、1学年35人程度だった。1、2年生は2クラスだったが、高学年になると、一気に40人という大きなクラスになった。

子供たちは、低学年では1クラス20人前後で過ごした。先生方もきめ細かく、2クラスだったので、一人の児童に対して、担任の先生ともう一クラスの先生の二人で見ていただき、ありがたかった。ここの議論ではないが、高学年で40人という枠は、今後、考えていただきたいと思う。

3番目の子は、1学年27人で理想の人数だった。6年生までこのままの人数で過ごした。十何人という規模は、主要5教科に関してはこれで良いと思うが、体育などでは、もう少し人数がいた方が盛り上がると思う。その辺りで考えると、資料に書いている人数は妥当である気もする。

委員

先日、PTAの方に言われて、小学校5年生、6年生、中学校の35人学級実現に関する署名を書いた。兵庫県の周辺の自治体では35人学級を実施しているところがあるそうだ。適正規模について、私がインターネットで調べた中で、アメリカのコールマン報告があった。そこでは、子供たちの教育効果を決定付ける最も大きな要因は、教育課程や教材、教師の能力ではなく、学校規模であり、それが小さければ小さいほど高まってくると述べられている。ただし、1966年と少し古い。また、グラス・スミス曲線というのは、学校規模が小さいほど、学力が高いという結果が出ている。さらに、あるホームページでは、WHOは学校規模と教育効果について、教育機関は小さくなくてはならない、生徒100人を上回らない規模が望ましいと示している。

学校が大きくなればなるほど、学校問題の発生率が高くなり、マイナスが大きくなる。1学級20人以下の学校は学力が高い。

	<p>ただ、だからと言って複式の学校にも問題がある。</p>
<p>会長</p>	<p>コールマン報告は1966年であるが、アメリカやイギリスは、その後、1970年代にゆとり教育を実施し、1980年代に是正した。日本も1990年代がゆとり教育で、2001年から是正した。一義的に、一つの要因で決まらないのが教育である。</p> <p>お金のことも絡んでくる。教育予算で一番高いのは、人件費である。色々な形で市の持ち出しも出てくる。</p>
<p>委員</p>	<p>最初の議題に「地域とともにある学校」とあったが、学級規模においても、その要素を取り入れるべきだと考える。例えば、1学級15人程度が望ましいということになってしまうと、たくさんの学校が統合の網に引っかかってしまう。決してそれでいいとは思わないが、だからといって、地域が工夫もしないで残してくださいというものも道理が通らないと思う。だから、地域が、学校と子供たちに関わっているということに係数化して、学校の持つ豊かさに加え、地域が子供たちに関わる豊かさを掛け合わせて判断できればと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>学級規模については、この辺りにして、次の議論へ進みたい。必要であれば、学級規模に戻ることもあり得る。</p>
	<p>3 議事</p> <p>(3) 学校配置と通学距離・時間について</p>
<p>会長</p>	<p>事務局からの説明を求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3「学校配置と通学距離・時間」を用いて、本市の現状、通学距離に関する法令基準等、通学距離及び通学時間の目安、適正化に向けた具体的な取組に当たって留意すべき事項について説明</p>
<p>会長</p>	<p>御意見、御質問を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>公共交通機関による通学費を行政が補助しているケース、スクールバスに対する市の補助について教えていただきたい。</p>

事務局	<p>スクールバスは、市の負担で一部の小学校区の小学生に対して運行している。対象は、前之庄小学校、安富南小学校の一部の校区である。</p> <p>公共交通機関による通学費の補助については、鹿谷中学校の一部の生徒に対してバスの運賃を補助している。</p>
委員	<p>小学生児童がバスに乗っている姿を見るが、それについては補助しているのか。</p>
事務局	<p>補助していない。</p>
委員	<p>資料では、通学距離と時間について示されているが、教科書が大きくなり、小学生1年生から重いかばんを背負っている。教育委員会として、例えば、重さを制限するような工夫はできないのか。</p>
事務局	<p>このことについては、文部科学省からも通知が出ている。児童生徒の持ち物について改めて検討し、必要に応じて適切な配慮を講じるようにという内容であった。</p> <p>本市教育委員会としても、ランドセルの重さについて調査したり、アンケートを実施したりしながら、検討に入っていく予定である。なお、文科省からの通知については、各学校に送付し、周知している。</p>
委員	<p>中学校長会では、学校に置いておいても良いというものを明示している。それを保護者に渡し、クラスに掲示している学校もある。</p>
委員	<p>姫路で、小学生がバス通学や電車通学をするというのは、いかがなものかという気がする。離れた所の学校へ通うというのは、体力がつくなどのプラス面もあるのだろうが、保護者にとっても心配だろうし、いかがなものかと思う。</p> <p>中学生にしても、片道1時間かけて、重たいかばんを背負って、部活動の道具を持って、行き来しなければならないのはどうかという気がする。</p> <p>スクールバスは、現在、安富の方面で走っているが、それを広げればという考えもあるだろうが、関宮町では四つの小学校を一つにし、全てにスクールバスを走らせて</p>

	<p>いる。そういった地域もあるが、各村々の歴史と伝統がある中で、それを潰してしまうようなことをすれば、失われるものもたくさんあるのではないかと思う。</p> <p>上郡は、昔から中学校が一つである。昔から山を越えて自転車に通っている。このような形が定着すればいいのかもしれないが、そこまでしていいのか。</p> <p>先ほど、小規模校の最少人数の議論が出ていたが、このことを十分考えて、やる必要があると、強く思う。</p>
委員	<p>以前は、山陽中学校区の一部で自転車通学を許可していたが、現在は許可されていないと聞く。それは、何を基準にして、だめになったのだろうか。他にも、自転車通学をしなければならない中学校もある。自転車の基準を決めておかないことには、これから色々問題が出てくると思う。</p>
会長	<p>自転車通学に関する規定はあるのか。</p>
事務局	<p>自転車については、各学校長の判断で許可している。その場合、距離を基準にしている学校や、地区を指定して許可している学校もある。</p>
委員	<p>私の勤務する中学校は、距離に関係なく、保護者から要望があれば全て許可しているので、数名を除いてほとんどの生徒が自転車通学をしている。</p> <p>ただし、教員は、生徒が下校してから少なくとも1時間は学校に残ることとしている。それは、下校中に、生徒に何かあった場合に対応できるようにするためである。遠い生徒は、通学距離が6 km 近くある。坂道も登らなければならない。</p>
委員	<p>保護者の送り迎えについては、何かルールはあるのか。</p>
事務局	<p>教育委員会として決めているきまりはない。小学生は、基本的には登校班で集団登校するので、送り迎えはない。ただし、健康面等で必要な場合は、一時的に送り迎えをすることもある。</p>
会長	<p>小学生は基本的に全て集団登校か。</p>

事務局	小学生は、基本的には全て集団登校である。
会長	通学のルールは、姫路はきっちりしていると感じた。
委員	<p>親としては、通学距離というのはすごく気になる。同じ距離でも、町側の地区と町から遠い地区では全く違うと思う。交通量もそうであるし、危険度も違う。もちろん町中にも危険はあるが、町から遠い地区に住むお母さんに聞くと、道が暗いし危ない、また、車が通るすぐそばを通学しなければならないと言われ、心配されている。校区は広いので、4 km、6 km というのはそれなりの距離なのかもしれないが、適正規模・適正配置をするときに、このことは気になる。今後、統廃合の話になった時に、スクールバスを出すから良いという話にはならない。学童（放課後児童クラブ）を利用している家庭でも、学校が近ければお迎えが間に合っている、統廃合されるとそうではなくなってしまう。その辺りは保護者も不安に思っている、距離については、もう少し柔軟な姿勢で、考えていただけたらと思う。</p>
委員	小学1年生が歩くとなると、4 km、1時間がぎりぎりのラインだと思う。
会長	だいたい子供が歩くと、1時間で4 kmと言われている。
委員	<p>特に、積極的に変更すべきだという考えではないが、1年生で1時間というのは、正直、負担ではあるのだろうと思う。</p> <p>それと、今後、通学路が変わる場合があることを踏まえて、現在、各学校で判断している自転車の基準をもう少し明確にしておくべきではないか。私が住んでいる校区でも、一部の地区は自転車通学、違う校区では一部、電車通学をしているが、先ほどの説明を聞くと、電車通学に対して補助が出ているわけではなさそうである。その辺りのガイドラインをある程度しっかりしておかないと、まちまちになってしまうのではないかというところが気になる。</p>
会長	<p>皆さんから出た意見を少しまとめると、考え方としては、小学校4 km、中学校6 kmで通学時間は1時間くらいで良いとしても、プラスして、公共交通機関を使う場合の補助のことや、自転車通学の許可の仕方のことや、集団登校のことや、見守り体制な</p>

ど安全確保のことなどについてももう少しきめ細かく考えておいた方が良いということであった。

その他、全体を通じて意見があるか。

委員

教育委員会も、あまり受け身にならないで、こうしてほしいという課題があれば、PRしていただきたい。我々自治会もできる範囲で協力させてもらう。課題を抱えないで、常に課題をオープンにして、前向きに検討していくといったスタンスで取り組んでいただきたい。

委員

当初、12月まで議論して終わりという予定から、もう少しじっくりと審議をしようという形にさせていただいた教育委員会に敬意を表する。

そうなる、じっくりと練っていかなければならない。今日も、色々これくらいが望ましいという意見が出ていたが、概ねその方向でとは言いながら、やはり、柔軟なところは残しておくべきであると思う。また、学校は子供のためのものではあるが、それだけではなく、色々な人の意見に耳を傾けながら、原則はこうであるが、これもありかなというところも残しておくべきだと思う。

委員

議論をする中で、一番大事だと感じたのは、人間関係であると思う。地域の方であったり、自治会や老人会であったり、保護者であったり、教育委員会であったり、市議会の方であったり、校長先生であったり、皆が一つになってこの問題に関わった時に、子供にとって人間関係が一番大事であると思う。そこを外さなければ、良い方向にいけると思う。

委員

非常に複合的な問題だということを実感した。だから、色々な方面から考えていく必要があると思った。地域活性化するには、どうすれば良いか考えた時に、昔は、学校が中心となって自然にうまくできていた。しかし、今後は、学校という概念を、少し変えていかなければならないのかもしれない。例えば、子育て支援を充実させるとか、あるいは、私が一番理想的だと思うのは、子供たちが学校から帰った後、地域におられる高齢の方が、子供たちに色々なことを教えたり、勉強をみたり、話を聞いてあげたりする、そういったコミュニティができたらいと思う。多世代交流と言えればいいのか。先ほどの意見で、地域への愛着の話があったが、私は、これは、ほのぼの

	<p>とした情緒だと思う。こういうことを教えてくれたとか、自分一人で辛かった時に話を聞いてくれたとか、地域にこういうおじいちゃんいたとか。それを、どのように作っていくかというところは、大事なところだと思う。</p> <p>それから、もう一つ。先ほど、学力の話があったが、新しい学力観というもの。これからは、我々が想像もできないような時代が来る。先ほど、SNSで対応できるという意見が出ていたが、直接言葉で対応するのと、機械を通した対応は全然違うと思う。幼児の育ちは、やはり実体験しなければ育たない。機械が、その間に入ってしまうと、脳の成長が遅れると、脳科学者も警告している。ある程度脳が育ったら、SNSなどは便利なツールである。しかし、ある程度育つまでは、できるだけ実体験をしてほしい。実際に話をするとか、実際にやってみるとか、人と関わるとかといった実体験。SNSなどは便利なツールで良いと思うが、非常に危ない時代に来ているなどとも思う。このような背景もあって、新しい学習指導要領が示すグループ活動やディスカッションにつながっていると思っている。</p>
会長	<p>今日は、色々なご指摘がたくさん出たと思う。これを、事務局で整理していただいて、最終の報告の素材としてうまく組み立てていただければと思う。</p> <p>これで議事を終了し、事務局へ返す。</p>
事務局	<p>4 連絡事項</p> <p>次回、第5回審議会を、12月21日（金）の午後2時から予定している。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>以上で本日の審議会を終わる。</p>